

ジャック・オー・ランタン作り

薬学部薬学科 徳勢 南帆 (東京都立南多摩中等教育学校出身)

私は今回、富士吉田キャンパスにある自然教育園で育てたかぼちゃでジャック・オー・ランタンを作りました。デザイン決めから自分たちで行い、生のかぼちゃの感触やにおいを味わいながら、友達と終始楽しく作業することができました。昼過ぎから作業を始め、辺りが暗くなり冷たい夕風が吹くまで夢中になって作業をしていました。みんなが作ったものを並べてみると一人ひとり表情が異なり、かぼちゃの前で足をとめてじっくり眺めていました。

富士吉田の自然を活かした秋らしい楽しみにふれることができ、今までのハロウィンで最も思い出に残るものになりました。今回のジャック・オー・ランタン作りのように、自然に触れながら季節を感じることでできるイベントが富士吉田キャンパスにはたくさんあり、この一年は季節の移り変わりを今まで以上に楽しめたと思います。

今後も自然教育園の様々なイベントに参加していきたいと思っています。立派なかぼちゃを育ててくださるとともに、企画や準備をしてくださった自然教育園の先生方、ありがとうございました。



ハロウィンパーティー 今年最後の富士吉田のイベント を終えて

歯学部歯学科 木村 海 (静岡サレジオ高等学校出身)

今年度のハロウィンパーティーは11月2、3日に開催しました。立食パーティーや仮装コンテストなどたくさんのイベントを行いました。

前期の寮祭の副実行委員長を経験していたこともあったので、ハロウィンパーティーでは実行委員長をやりたいと思い、立候補しました。このような大きなイベントの実行委員長を務めることができるか正直、不安でした。しかし、実行委員や執行部、各部門の部門員が支えてくれたおかげで無事に成功することができました。

ハロウィンパーティーは今年度の吉田生活最後のイベントです。顔見知りが多くなったこの時期であったこと、また外にはきれいで豪華な装飾が飾られたことで、大変に盛り上がりました。多くのバンド演奏やダンス、各種イベントがプログラムに盛り込まれ、出演者各々がそれぞれの個性を発揮していたのが印象的でした。

準備期間は1ヶ月と短く、委員をどのようにまとめたらいいいのか、準備をどのように進めればいいのか分からず悩みました。しかし、委員には積極的な人が多かったため、支え合い、意見を出し合っただけで本番を迎えることができました。実行委員長とはいえ一人では何もできないため、協力して一つのものをつくること、人を信頼することの大切さを実感しました。そして当日は、多くの学生や先生も一緒に楽しんで、大成功のハロウィンパーティーとなりました。出演者やスタッフ、観客全員にとって辛かったことや嬉しかったことの全てが最高の思い出となったのではないのでしょうか。

最後になりますが、ハロウィンパーティーを行うにあたり先生方、事務課の方、栄養士さん、食堂の方、ポイラーさんと、多くの方々のお世話になりました。本当にありがとうございました。そして、実行委員ならび執行部の方々、とても忙しいなか協力していただき本当にありがとうございました。お疲れ様でした。



白樺百合

昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第36号 2020.2.6発行

発行責任者 富士吉田教育部長 倉田知光
編集責任者 富士吉田教育部広報委員長 田中周一
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403



富士吉田教育部講師 前田昌子 撮影

昭和大学に学んだ四十余年

富士吉田教育部 教授 大幡 久之



47年前(昭和48年)の春、昭和大学薬学部生として男子寮(当時は男子寮と呼び、白樺寮となったのは、その後、赤松寮が竣工してからのことです。)に入寮した日のことは今でも鮮やかに覚えています。今は違って校舎の周りには何もなく、大変なところにきてしまったなあ、という感じもありましたが、医学部4名、薬学部4名の計8人部屋ですぐに打ち解け、昭和大学での寮生活が始まりました。チーム医療やコミュニケーション力の大切さが叫ばれる昨今ですが、当時はそんな言葉もないなか、友達作りの不得手な私でも知らず知らずのうちに学部の垣根を越えて仲間意識を持てるようになっていきました。

高校まではあまり真剣に勉強に取り組んだことがなく、基礎学力の乏しさに焦りを覚えたものでした。諸先生方の熱い語らいはもちろんのこと、幸いにも周りの学友たちに助けられながら一緒に学ぶうちに、知ること・理解することの面白さを感じられるようになっていったように思います。もちろん、それ以外にも集団生活ならではの様々な経験をさせていただき、私の人生の中でも最も印象に残る一年間でした。

薬学部卒業後は、卒業研究でお世話になった薬学部薬理学教室の助手として研究・教育に携わることになりました。それ以来、平成27年4月に富士吉田教育部に移動となるまでは薬学部以外の教育に関わることはあまりなく、薬学部教育の中でもその一部を担当しているという意識が強かったように思います。

富士吉田教育部の教育に携わる機会が得られたことで、改めて医療人としての第一歩を踏み出すための教育について、また、学部連携で行う教育の大切さを身をもって考える5年間となりました。短い期間ではありましたが、4学部の学生との関わりや、専門外の先生方との交流などを通して自分自身の視野を広げることができたと感じています。また、学生に対しては医療人としての心構えや態度、生命科学を学ぶことへの興味や面白さを少しでも伝えられればと思って接してきました。学生自身がそれをどう捉えてくれたかは定かではありませんが、医療人として大きく羽ばたいてくれることを願うばかりです。

医療人教育の原点である富士吉田で学び、薬学部教員として昭和大学に育てられ、四十余年後に再び富士吉田教育部での教育に携われたことを大変うれしく、心より感謝申し上げる次第です。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮(男子寮)」「百合寮(女子寮)」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をとげて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。

初年次体験実習

在宅訪問実習

在宅訪問実習で学んだこと

歯学部歯学科 三好 聡史 (広島城北高等学校出身)

在宅訪問実習は、富士吉田市にお住まいの高齢者のお宅を訪問してその方と話し合い、富士吉田市について学び、そしてどのような方が住んでいるのかを知ることができる実習です。

私が伺ったお宅の方は、とても明るくて、とても優しい方でした。私たちははじめ、緊張してしまい、自分たちからうまくお話しをすることができなかつたのですが、その方が富士吉田市のことやご自分の過去の体験などさまざまなお話をしてくださったおかげで、緊張がほぐれ、最後は楽しくお話をすることができました。訪問後には、そのお住まいの周りのスーパーや薬局、レストラン、病院などを散策しました。そうすることで、その方がよくいらっしゃる場所に行くことができ、その方の暮らしが学べます。それと同時に、富士吉田市がどのような町なのかの一端を知ることできます。

この実習で経験した、自分が知らない方とお話しし、その方の生活について考えることは、将来私たちが医療人として、患者さんとコミュニケーションをとり、診断することにつながるといふことに私は気づきました。

この実習を通じて、医療とはどのようなものなのか、またそれを行うためには、自分たちが何をすべきなのかを学ぶことができました。



父兄会

父兄会秋季部会開催

10月5日、父兄会秋季部会富士吉田教育部会が富士吉田キャンパスで開催され、1年次学生の保護者らおよそ530名が出席しました。

富士吉田スクエアガーデンで行われた全体会議では、與儀美由紀父兄会長、続いて小口勝司理事長、久光正学長、倉田知光富士吉田教育部長、稲垣昌博教育委員長がそれぞれ挨拶しました。全体会議終了後はSGSCセンターで指導担任との面談や、学生寮見学、初年時体験実習報告会などが平行して行われました。そして、体育館で懇親会が執り行われ、令和元年度の父兄会は盛会のうちに無事終了いたしました。



施設実習

支援学校実習を通して学んだこと

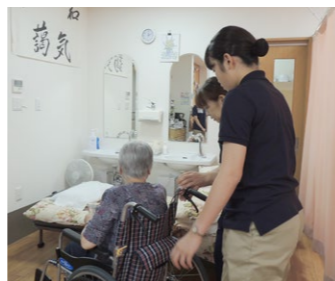
薬学部薬学科 中家 颯子 (児華学園高等学校出身)

初年次体験実習の一環で、山梨県立かえで支援学校での学校実習を行いました。特別支援学校であるかえで支援学校には、主に重度の知的障がいを持つ児童や生徒が通っています。

私は3日間、4年生のひとつの学級に参加させていただきました。クラスでは、1日ごとに異なる一人の児童を担当し、遊びや授業、給食、掃除などを通して密接に寄り添いました。授業は、児童個々の能力や性格に合わせた学習内容で児童二人に対し先生が一人つくという手厚い指導を行っていました。それだけでなく、休み時間や給食の時間、掃除の時間などを利用して日常生活を送るうえでの大切な知識につながるよう、どの瞬間も児童にとっての学びの時間となる工夫がなされていると感じました。

実習を通して、コミュニケーションと個人情報の重要な関連性について学びました。相手のバックグラウンドに配慮した接し方をすることにより、適切なコミュニケーションを図ることができます。更にこのようなコミュニケーションによって、より良い関係を築くことが可能になるということを実感しました。

最後になりますが、実習を受け入れ、貴重な体験と大きな学びの機会を提供してくださったかえで支援学校関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。今回学んだことを、将来患者さんと接する際に実践していきたいと思えます。



学部実習

実習を通して感じた思い～初めて看護師を見学して～

保健医療学部看護学科 岸本 志保 (森村学園高等部出身)



私が三日間の学部実習を経験して感じたことは、看護師になるという道を選んでよかったということです。三日間、私は横浜市北部病院で呼吸器疾患などの患者さんが入院している病棟の看護師さんに付き、看護師の仕事を見学させていただきました。実習中の私の一番の学びは、「看護師がしているすべてのことは常に誰かのためである」ということです。私の実習先である病棟のナースステーションでは常に看護師が患者さんのための作業をなされていて、一箇所にどまることはほとんどありませんでした。たしかに、この世の仕事はすべて誰かのためのものです。しかし、看護師ほど相手と関わり、向き合い、共感できる仕事はないと思いました。

最後の日、主任の看護師さんから「この三日間で感じたことは、あなたが一番患者さんに近い状態で感じた気持ちであり、これから一生忘れちゃいけない気持ちだよ。」との言葉を頂きました。この気持ちを大切に、誰かのために精一杯働ける看護師を目指します。



病院実習

プロフェッショナルへのはじめての一步

医学部医学科 櫻井 春輝 (巣鴨高等学校出身)

患者ではない立場で病院の中に入るの、これが初めてでした。病院実習で昭和大学横浜市北部病院に足を踏み入れた瞬間、自分の将来に大きく近づいた気がしました。

実習では医・歯・薬・看護・理学療法・作業療法全ての分野のプロフェッショナルの働く姿をこの目で見て、現場の声を生で聞くことができました。将来、共にチーム医療を行う仲間の仕事を理解する貴重な機会となりました。また、医療者として最も大切であることの一つを白内障手術の見学を通して学ぶことができました。それは、患者さんに接する際の心構えと医療人として自分より患者さんの利益を最優先に考えた行動です。執刀医は無菌空間に非常に気を遣っており、私達の一人が手術器具の入っている台に触れてしまった際、私達を厳しく叱ってくださいました。患者さんに最善を尽くそうと毎日その道のプロフェッショナルとして仕事に邁進している医療者の姿を、この経験から学びました。一方で患者さんと接する際には、視線をしっかりと合わせながら患者さんの話を笑顔で傾聴し、安心させる言葉をかけていました。さらに、ICUではチーム医療を実感できたことに加え上級生の学部連携病棟実習を目の当たりにしたことで、将来の自分の理想像を思い描き自分に求められるものを考える良い機会となりました。

私達の将来のために実習にご協力くださるとともに、貴重な経験の場を提供して下さり誠にありがとうございます。この経験を糧にプロフェッショナルな医師になるために日々自分を磨いてまいります。



富士登山競走救護ボランティア

富士登山と救護ボランティア

薬学部薬学科 富塚 稚菜 (豊多摩高等学校出身)

1泊2日で富士登山、次の日に富士登山競走救護ボランティアを行いました。朝6時に新宿駅を出発し、一週間前に夏季退寮したばかりの富士吉田市へ胸を躍らせながら向かいました。過密な日程でしたが、とても楽しみでした。山に関連することなので天気は鍵ですが、出発2日前に予報は晴れとなり、満点の環境で3776メートル地点まで登ることができました。寒すぎることもなく、大きな雲海の彼方から昇る黄金の太陽や手に届きそうなくらい近い無数の星、また眼下には鮮やかな虹も見ることができ大満足でした。

しかし、山の天気は変化が激しいため、翌日の富士登山競走の日には大きな厚い雲に覆われ、小雨模様になってしまいました。頂上はより悪天候となり、今回の富士登山競走は五合目コースのみの開催となってしまいました。私が登った前日も五合目以上で頂上コースの登山競走の練習をなさる方を見ていたので、とても残念でした。頂上コースに挑むランナーの方のショックも大きかったと思いますが、そんな気持ちも感じさせない力強い走りに感動しました。また、現地で合流した市内の病院の救急救命士や看護師の方々、および他大学の救護ボランティアの方々の無駄のない動きやあたたかい優しさに触れるとともに、自分の未熟さを痛感しました。そして、将来医療人になる者としての心構えを改めることができました。短期間で登山者の立場と救護側の立場の双方を経験することで高地の特殊性を学び、限られた場所や物のなかで最善を選ぶ難しさを学ぶことができました。そして、富士吉田市で暮らすうちに富士山に関わることをしたいと思うようになり、今回その思いを実現することができました。富士吉田キャンパスで過ごす今しか得ることのできない良い思い出になりました。



市民公開講座

市民公開講座の学生ボランティアを通じて

薬学部薬学科 長坂 あい (神奈川大学附属高等学校出身)

10月6日の日曜日、富士吉田市民会館にて富士五湖薬剤師会主催の市民公開講座が行われました。私たちは学生ボランティアとして公開講座に参加しました。当日は駐車場の誘導や、会場内の案内係、受付を担当しました。富士五湖文化センターは市民公開講座の他にもさまざまなイベントが催されており、会場は混雑していました。私は慣れないながらも駐車場の誘導係を担当しましたが、自分のやったことが少しでも会場に来られた方々の役に立ったことを嬉しく思いました。市民公開講座が始まる頃には誘導作業も一段落したので、私たちも講座に参加させていただきました。健康と食事に関する講演で、とても興味深いものでした。講演後、富士五湖薬剤師会の方々や交流し、薬局実習の際にお世話になった方に再会することができました。私は薬剤師は薬局で働く、というイメージが強かったのですが、薬局の外でも地域に貢献しているのを感じることができました。

講演のあとで、地域の方々が熱心に質問をしていたのが印象的でした。このような講座に参加し、地域の方々の視点をすることで、私の視野を広げることができたと思います。今後さまざまなボランティア活動を通じて、多くの人と関わり、多様な視点を身につけていきたいと思いました。



Mt.Fuji 河口湖ジャズフェスティバル2019

JAZZと富士に包まれて

保健医療学部看護学科 宇野 優那 (立教女学院高等学校出身)

11月3日(日)に河口湖の近くにある河口湖円形ホールで開催されたジャズフェスティバルに参加してきました。富士吉田は11月に入ると一気に寒くなり、当日も寒い中でのSI*の活動でしたが、フェスティバルは熱気あふれるものでした。私は今回のSIで、チケット販売・拜見、屋台での食事・飲み物の販売など、主に裏方の仕事を行いました。今回このような裏方の仕事に興味がありましたが、今までこのような機会がなかったの、とてもよい経験になりました。

また、河口湖で行われていたこと、休日であったことから、このジャズフェスティバルにはたくさんの外国人がいらしゃり、その対応をすることが何度かありました。ジャズをホール内で聴く場合は有料チケットが必要だったのですが、チケットを持たずにホール内に入ろうとしている外国人の方を止めるときに、咄嗟に英語が出てこなかったため、どうしてほしいのか、何が問題なのかをすぐに伝えることができませんでした。

2020年は東京オリンピックが開催され、より多くの外国人が来日すると予想されます。今回のSIを通して、裏方の仕事の大変さや楽しさを学ぶとともに、どのような仕事にも英語力が必要であることを痛感した一日となりました。

*SI Student Instructorとよばれる学内ボランティア活動の略称

